

表1.回答者の特徴

		N (%)
性別	男性	226(75.8)
	女性	72(24.2)
医師免許取得年数	<5年	0
	5-10年	14(4.7)
	11-15年	45(15)
	>15年	239(80.2)
がん治療に携わっている年数	<5年	12(4)
	5-10年	39(13)
	11-15年	36(12)
	>15年	184(61.7)
	直近2年以上は携わっていない	26(8.7)
専門領域	小児血液腫瘍内科	233(78.2)
	小児外科	35(11.7)
	脳神経外科	6(2)
	その他	24(8.05) 放射線治療6、児童精神科3、整形外科4、免疫・アレルギー2、小児腫瘍科1、小児一般4、小児内分泌1
大学病院勤務	はい	168(56.4)
	いいえ	140(43.6) 公立総合病院27、小児病院18、総合病院8(私立も含む)、赤十字病院4、クリニック4、がんセンター3

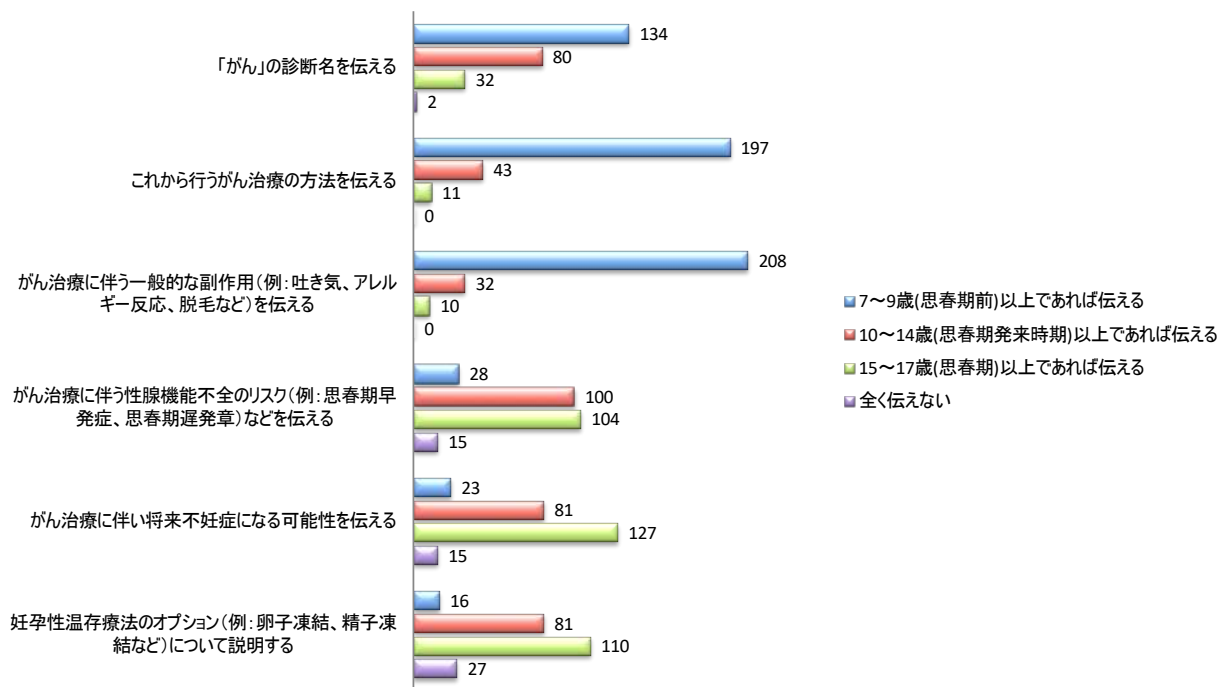


図1.女の子の小児・思春期患者ががんと診断された時、がん治療開始前に患者本人に必ず伝えることは何ですか。(年齢別)(Q6)

表2: 図1のデータ

#	Field	7~9歳(思春期前)以上であれば	10~14歳(思春期発来時期)以上であれば	15~17歳(思春期)以上であれば	全く伝えない	専門外のため答えられない	Total
1	「がん」の診断名を伝える	51.15% 134	30.53% 80	12.21% 32	0.76% 2	5.34% 14	262
2	これから行うがん治療の方法を伝える	75.19% 197	16.41% 43	4.20% 11	0.00% 0	4.20% 11	262
3	がん治療に伴う一般的な副作用(例:吐き気、アレルギー反応、脱毛など)を伝える	79.39% 208	12.21% 32	3.82% 10	0.00% 0	4.58% 12	262
4	がん治療に伴う性腺機能不全のリスク(例:思春期早発症、思春期遅発症)を伝える	10.69% 28	38.17% 100	39.69% 104	5.73% 15	5.73% 15	262
5	がん治療に伴い将来不妊症になる可能性を伝える	8.78% 23	30.92% 81	48.47% 127	5.73% 15	6.11% 16	262
6	妊孕性温存療法のオプション(例:卵子凍結、精子凍結など)について説明する	6.11% 16	30.92% 81	41.98% 110	10.31% 27	10.69% 28	262
7	その他伝えていることがあればご記入下さい。	36.64% 96	3.44% 9	4.58% 12	32.44% 85	22.90% 60	262

その他(具体例):
 治療の必要性
 妊孕性以外の晩期合併症
 生命予後
 長期フォローの必要性
 入院期間

いつでもサポートしますということ
 治療にかかる期間
 学校や社会生活のこと(復学時、外見や体調で気になることがあれば前もって担任や養護教諭と打ち合わせをしようなど)
 病気になったのは誰のせいでもないということ

治療費
 院内学級や病棟保育士の存在
 聴力低下・低身長など
 治る可能性が十分にあること
 受ける検査の方法や様子など

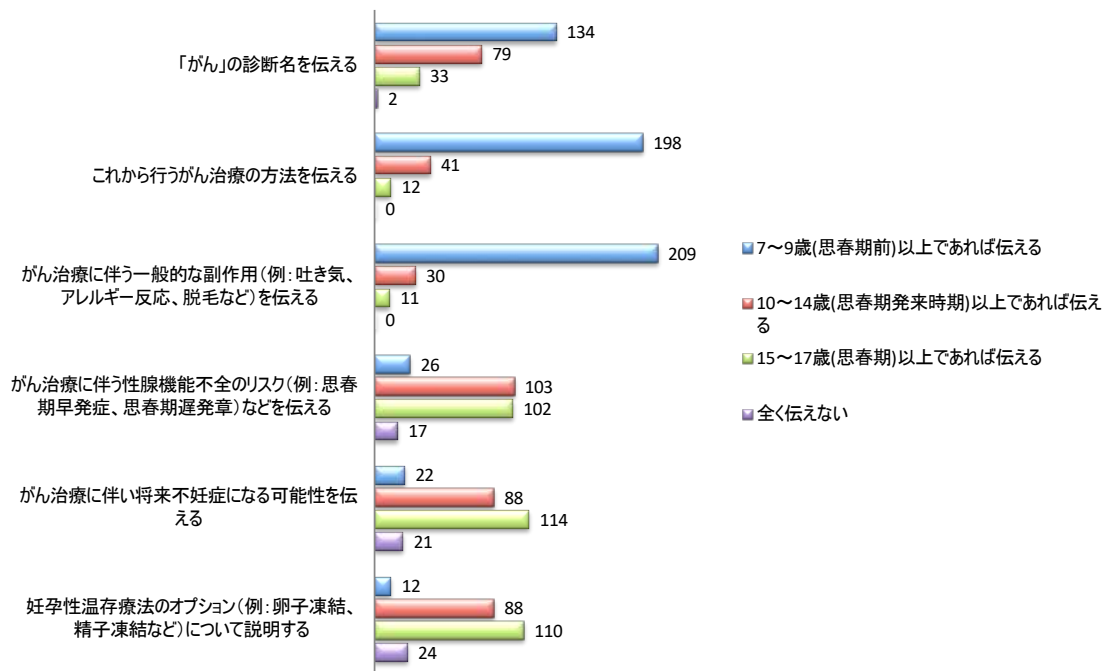


図2. 男の子の小児・思春期患者ががんと診断された時、がん治療開始前に患者本人に必ず伝えることは何ですか。(年齢別)

表3. 図2のデータ

#	Field	7～9歳（思春期前）以上であれば	10～14歳（思春期発来時期）以上であれば	15～17歳（思春期）以上であれば	全く伝えない	専門外のため答えられない	Total
1	「がん」の診断名を伝える	51.15% 134	30.15% 79	12.60% 33	0.76% 2	5.34% 14	262
2	これから行うがん治療の方法を伝える	75.57% 198	15.65% 41	4.58% 12	0.00% 0	4.20% 11	262
3	がん治療に伴う一般的な副作用（例：吐き気、アレルギー反応、脱毛など）を伝える	79.77% 209	11.45% 30	4.20% 11	0.00% 0	4.58% 12	262
4	がん治療に伴う性腺機能不全のリスク（例：思春期早発症、思春期遅発症）を伝える	9.92% 26	39.31% 103	38.93% 102	6.49% 17	5.34% 14	262
5	がん治療に伴い将来不妊症になる可能性を伝える	8.40% 22	33.59% 88	43.51% 114	8.02% 21	6.49% 17	262
6	妊孕性温存療法のオプション（例：卵子凍結、精子凍結など）について説明する	4.58% 12	33.59% 88	41.98% 110	9.16% 24	10.69% 28	262
7	その他伝えていることがあればご記入下さい。	36.64% 96	3.82% 10	4.58% 12	32.06% 84	22.90% 60	262

その他（具体例）：
 治療の必要性
 妊孕性以外の晩期合併症
 生命予後
 長期フォローの必要性
 入院期間

いつでもサポートしますということ
 治療にかかる期間
 学校や社会生活のこと（復学時、外見や体調で気になることがあれば前もって担任や養護教諭と打ち合わせをしようなど）
 病気になったのは誰のせいでもないということ

治療費
 院内学級や病棟保育士の存在
 聴力低下・低身長など
 治る可能性が十分にあること
 受ける検査の方法や様子など

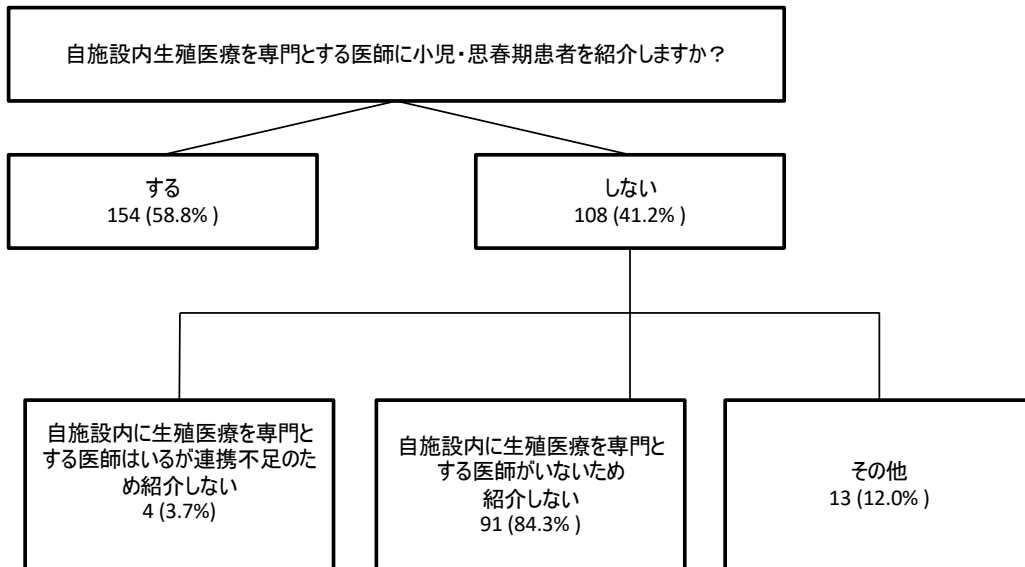


図3. 自施設内生殖医療を専門とする医師に小児・思春期患者を紹介しますか？

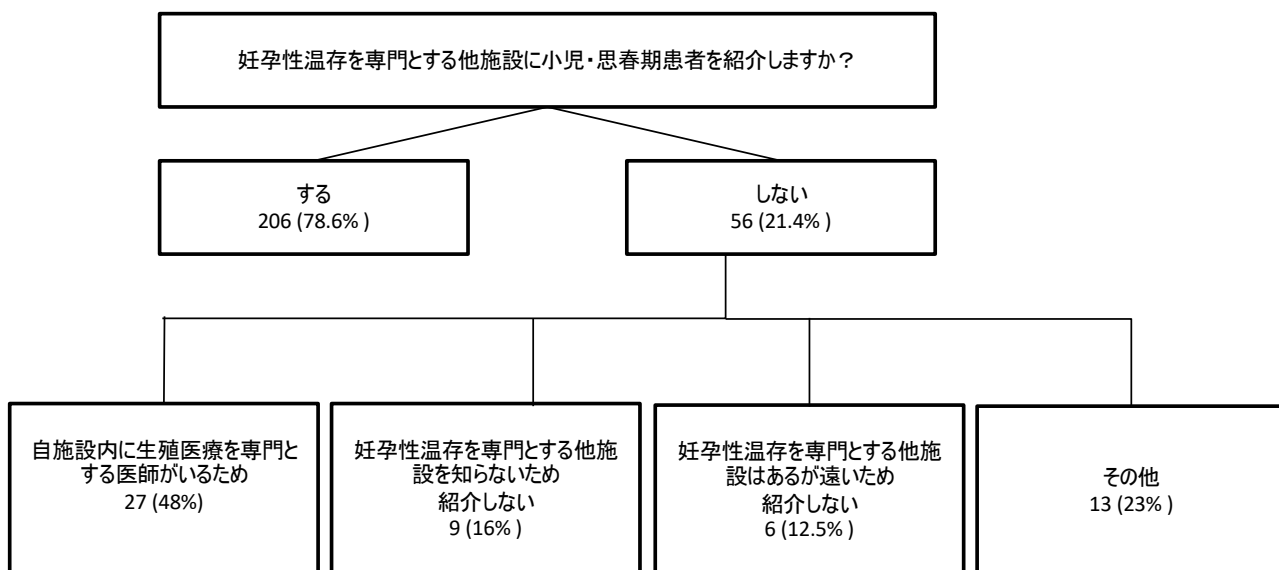


図4. 妊孕性温存を専門とする他施設に小児・思春期患者を紹介しますか？

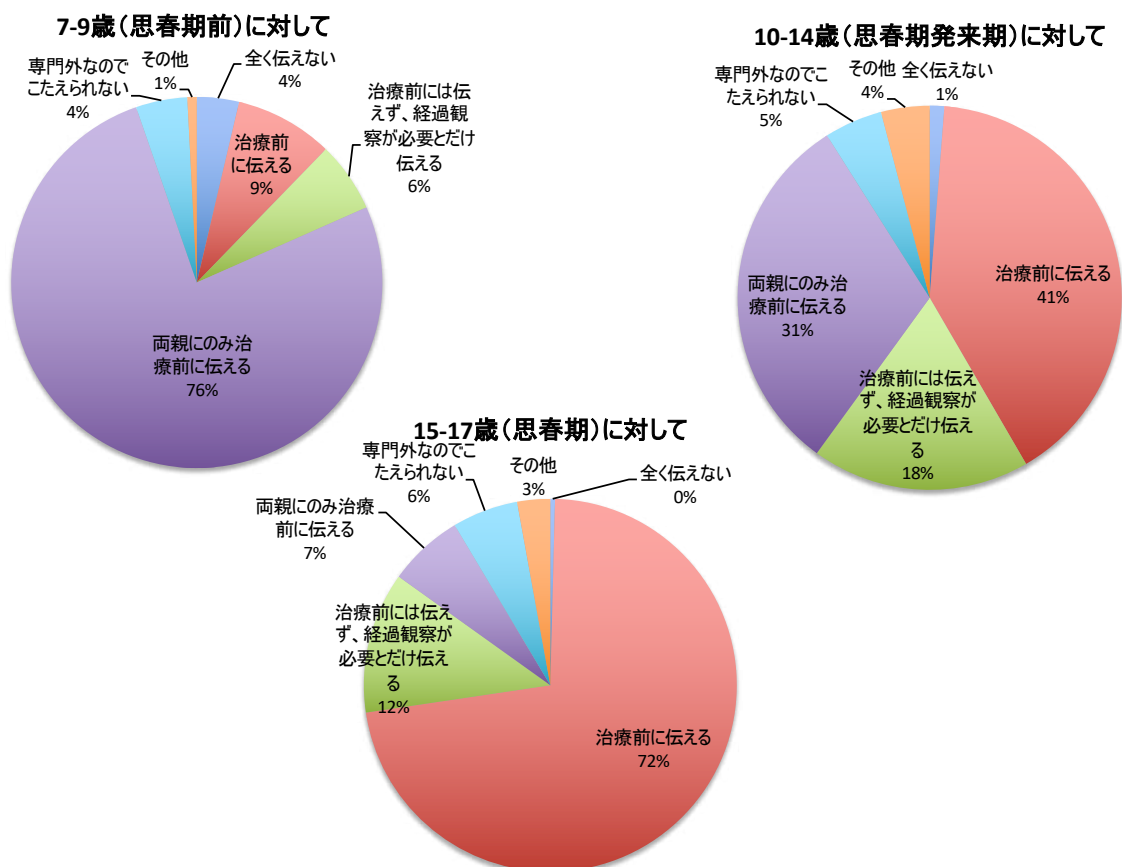


図5-1. あなたは小児・思春期患者に対して、がん治療による性腺機能不全のリスク(例:思春期遅発症など)について、いつ誰に伝えますか。(Q11)
円グラフver.

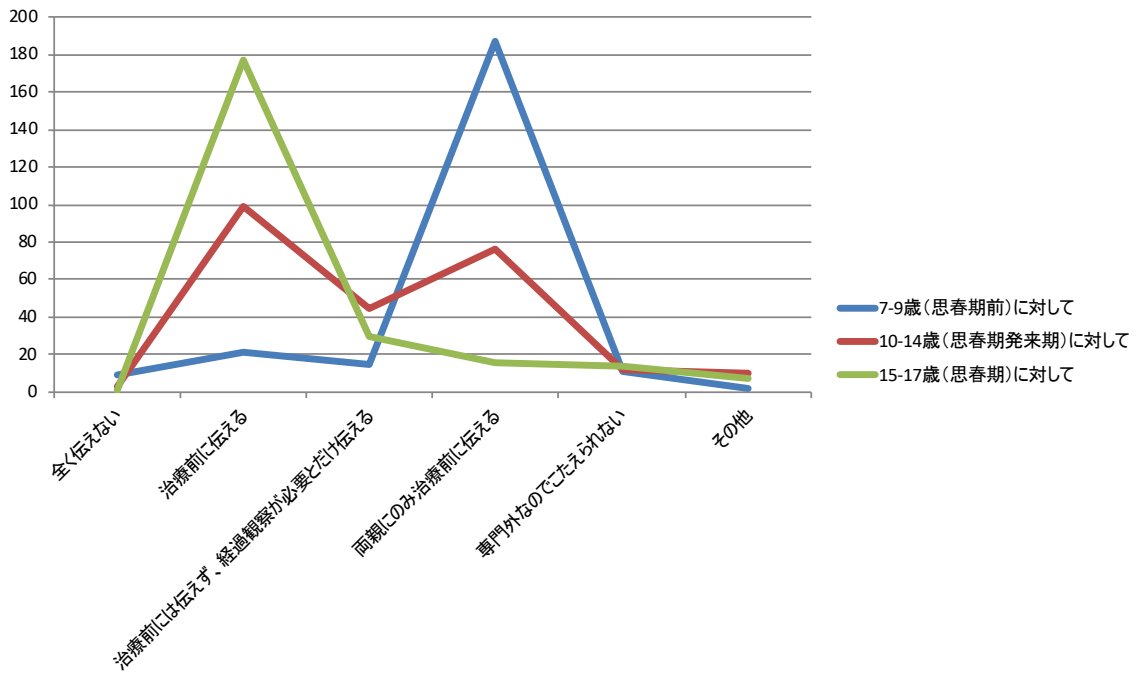


図5-2. あなたは小児・思春期患者に対して、がん治療による性腺機能不全のリスク(例:思春期遅発症など)について、いつ誰に伝えますか。(Q11) 折れ線グラフver.

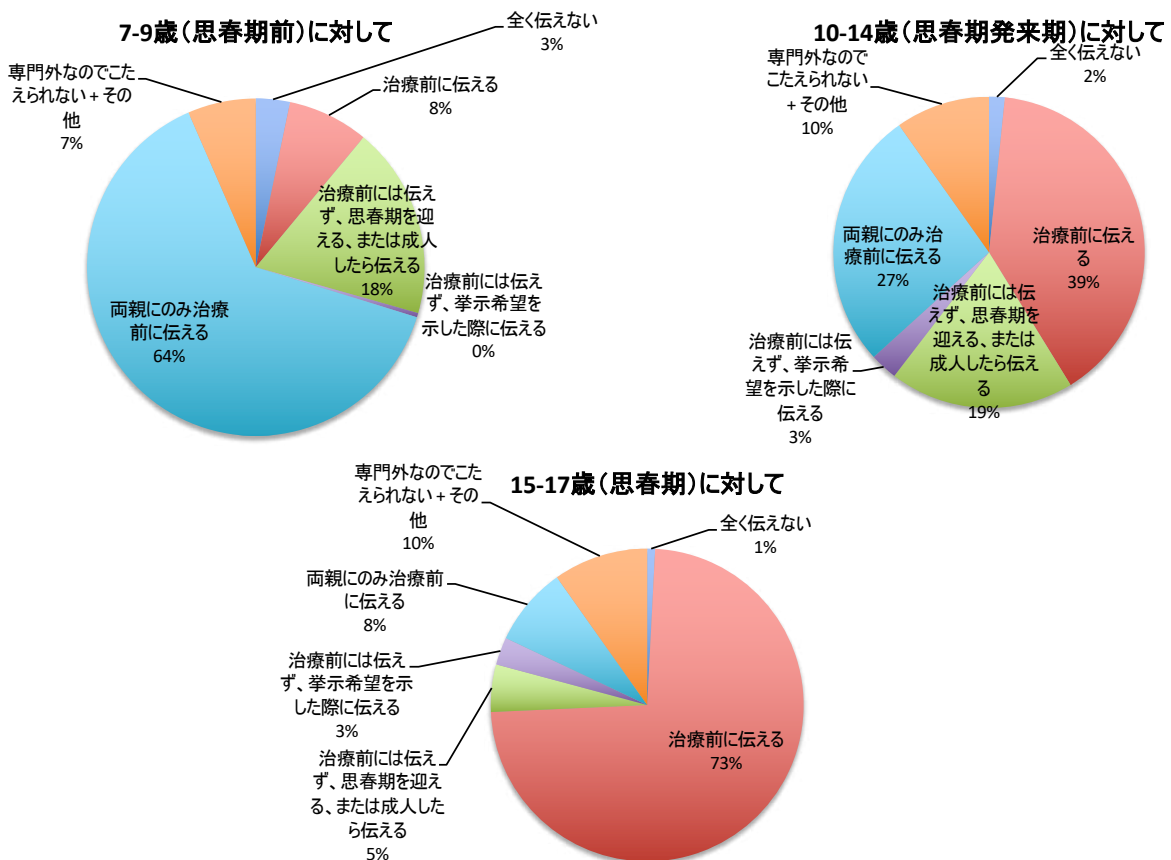


図6-1. あなたは小児・思春期患者に対して、がん治療による将来不妊症になる可能性について、いつ誰に伝えますか。(Q13) 円グラフver.

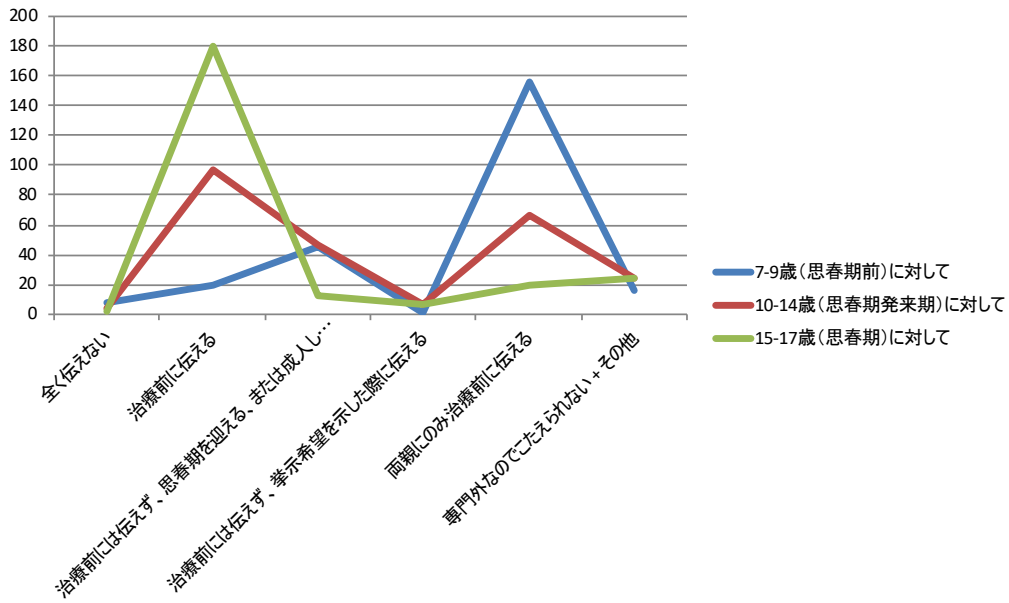
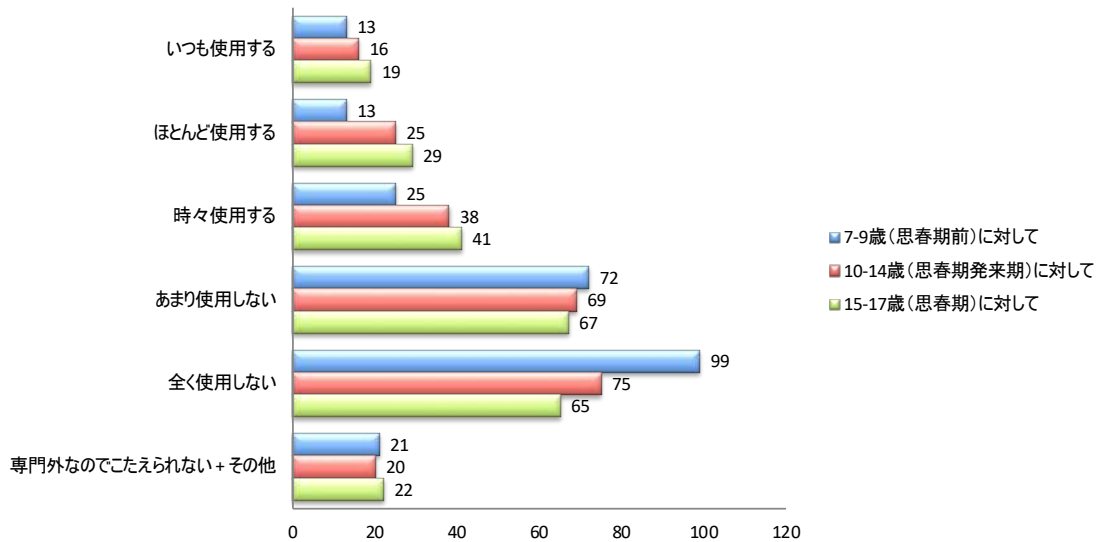


図6-2. あなたは小児・思春期患者に対して、がん治療による将来不妊症になる可能性について、いつ誰に伝えますか。(Q13)
折れ線グラフver.



#	Field	いつも使用する	ほとんど使用する	時々使用する	あまり使用しない	全く使用しない	専門外なので答えられない	Total
1	7～9歳 (思春期前) に対して	5.35% 13	5.35% 13	10.29% 25	29.63% 72	40.74% 99	8.64% 21	243
2	10～14歳 (思春期発来時期) に対して	6.58% 16	10.29% 25	15.64% 38	28.40% 69	30.86% 75	8.23% 20	243
3	15～17歳 (思春期) に対して	7.82% 19	11.93% 29	16.87% 41	27.57% 67	26.75% 65	9.05% 22	243

図7. あなたは性腺機能不全のリスク(例: 思春期遅発症など)や将来不妊症になる可能性を説明するときは、パンフレット、教科書などの資料を使いながら説明していますか？(Q15)

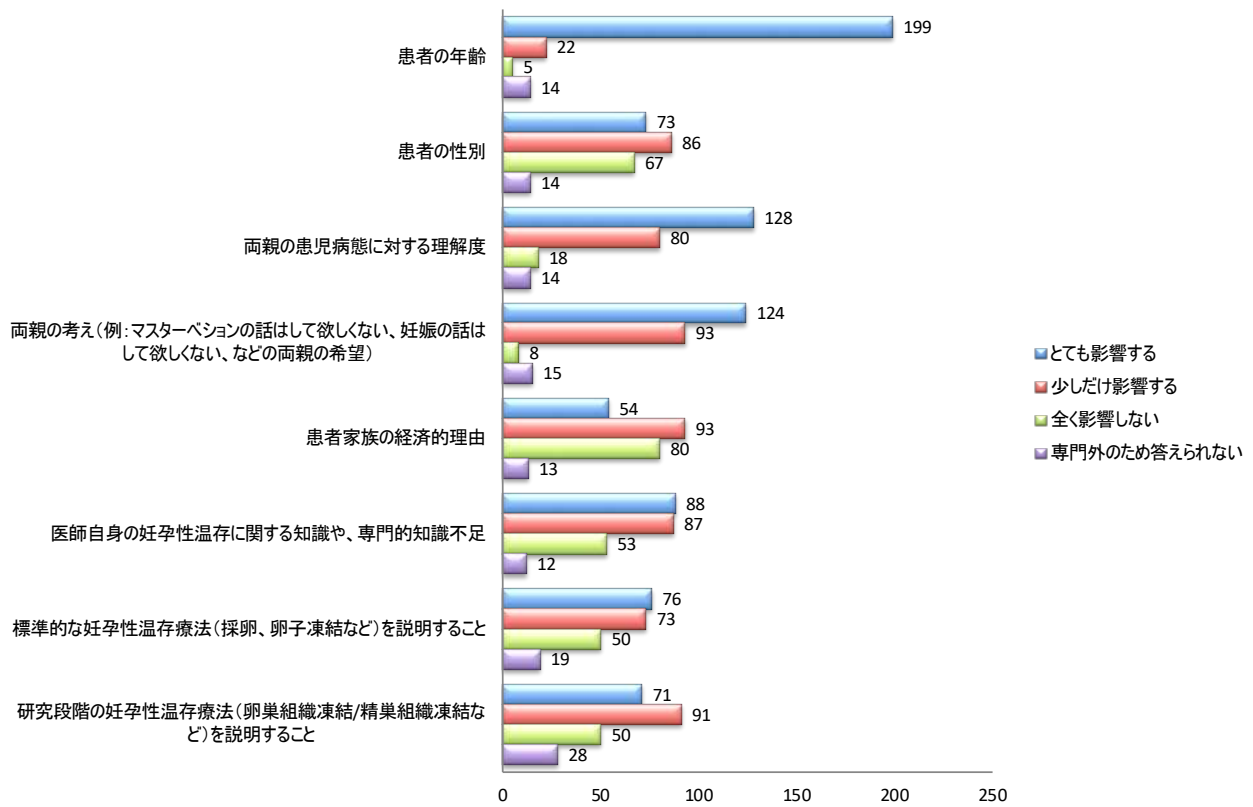


図8. あなたが小児・思春期患者に対して直接、がん治療による性腺機能不全のリスク(思春期遅発症など)、将来不妊症になる可能性、妊孕性温存療法の説明を行うかどうかを決定する際に、影響を受ける因子は何ですか？(Q17)

表4. 図8のデータ

#	Field	とても影響する	少しだけ影響する	全く影響しない	専門外のため答えられない	Total
1	患者の年齢	82.92% 199	9.17% 22	2.08% 5	5.83% 14	240
2	患者の性別	30.42% 73	35.83% 86	27.92% 67	5.83% 14	240
3	両親の患児病態に関する理解度	53.33% 128	33.33% 80	7.50% 18	5.83% 14	240
4	両親の考え (例: マスターベーションの話はして欲しくない、妊娠の話はして欲しくない、などの両親の希望)	51.67% 124	38.75% 93	3.33% 8	6.25% 15	240
	患者家族の経済的理由	22.50% 54	38.75% 93	33.33% 80	5.42% 13	240
	医師自身の妊孕性温存に関する知識や、専門的知識不足	36.67% 88	36.25% 87	22.08% 53	5.00% 12	240
	標準的な妊孕性温存療法 (採卵、卵子凍結など) を説明すること	31.67% 76	30.42% 73	30.00% 72	7.92% 19	240
10		20.83% 50	28.75% 69	20.83% 50	29.58% 71	240
	研究段階の妊孕性温存療法 (卵巣組織凍結/精巣組織凍結など) を説明すること	29.58% 71	37.92% 91	20.83% 50	11.67% 28	240
	Click to write Statement 10	15.42% 37	17.50% 42	18.33% 44	48.75% 117	240

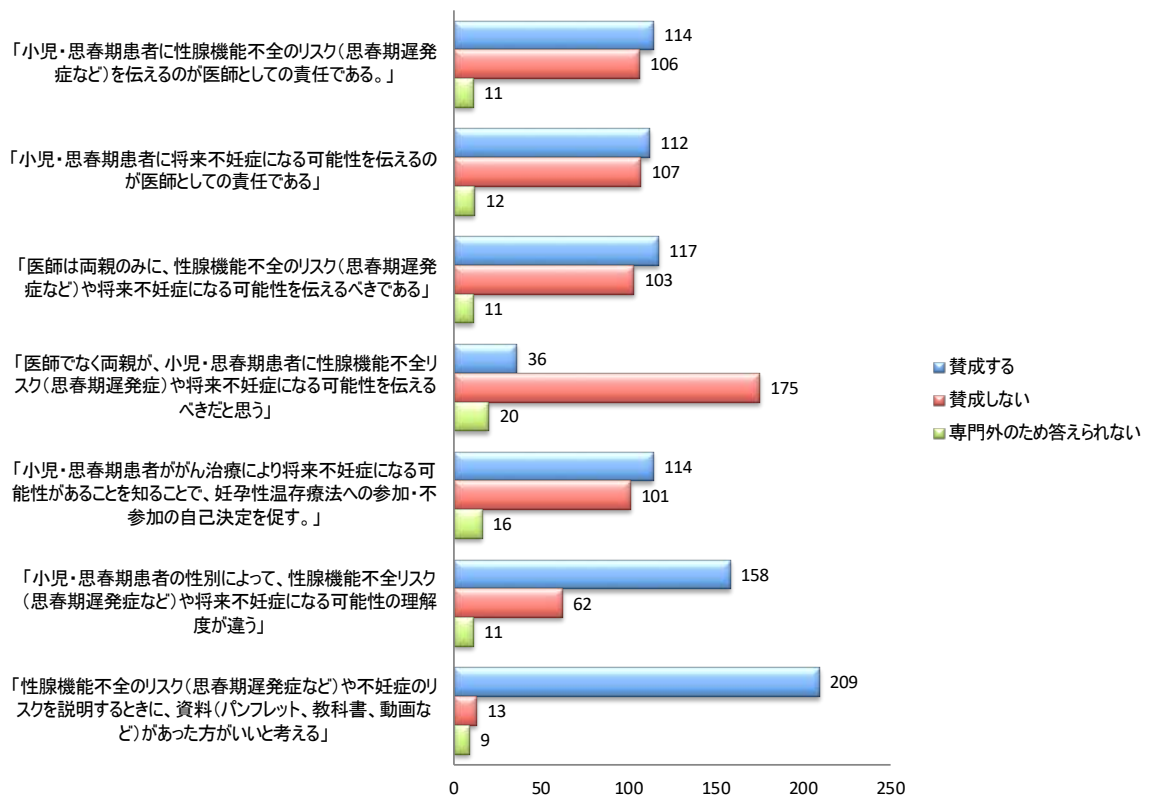


図9. 次の事項についてあなたが医師として賛成するかどうか年齢別に教えてください(Q18)

表5. 図9のデータ

#	Field	賛成する	賛成しない	専門外のため答えられない	Total
1	「小児・思春期患者に性腺機能不全のリスク(思春期遅発症など)を伝えるのが医師としての責任である。」	49.35% 114	45.89% 106	4.76% 11	231
2	「小児・思春期患者に将来不妊症になる可能性を伝えるのが医師としての責任である」	48.48% 112	46.32% 107	5.19% 12	231
3	「医師は両親のみに、性腺機能不全のリスク(思春期遅発症など)や将来不妊症になる可能性を伝えるべきである」	50.65% 117	44.59% 103	4.76% 11	231
	「医師でなく両親が、小児・思春期患者に性腺機能不全リスク(思春期遅発症)や将来不妊症になる可能性を伝えるべきだと思う」	15.58% 36	75.76% 175	8.66% 20	231
	「小児・思春期患者ががん治療により将来不妊症になる可能性があることを知ることで、妊孕性温存療法への参加・不参加の自己決定を促す。」	49.35% 114	43.72% 101	6.93% 16	231
	「小児・思春期患者の性別によって、性腺機能不全リスク(思春期遅発症など)や将来不妊症になる可能性の理解度が違う」	68.40% 158	26.84% 62	4.76% 11	231
	「性腺機能不全のリスク(思春期遅発症など)や不妊症のリスクを説明するときに、資料(パンフレット、教科書、動画など)があった方がいいと考える」	90.48% 209	5.63% 13	3.90% 9	231

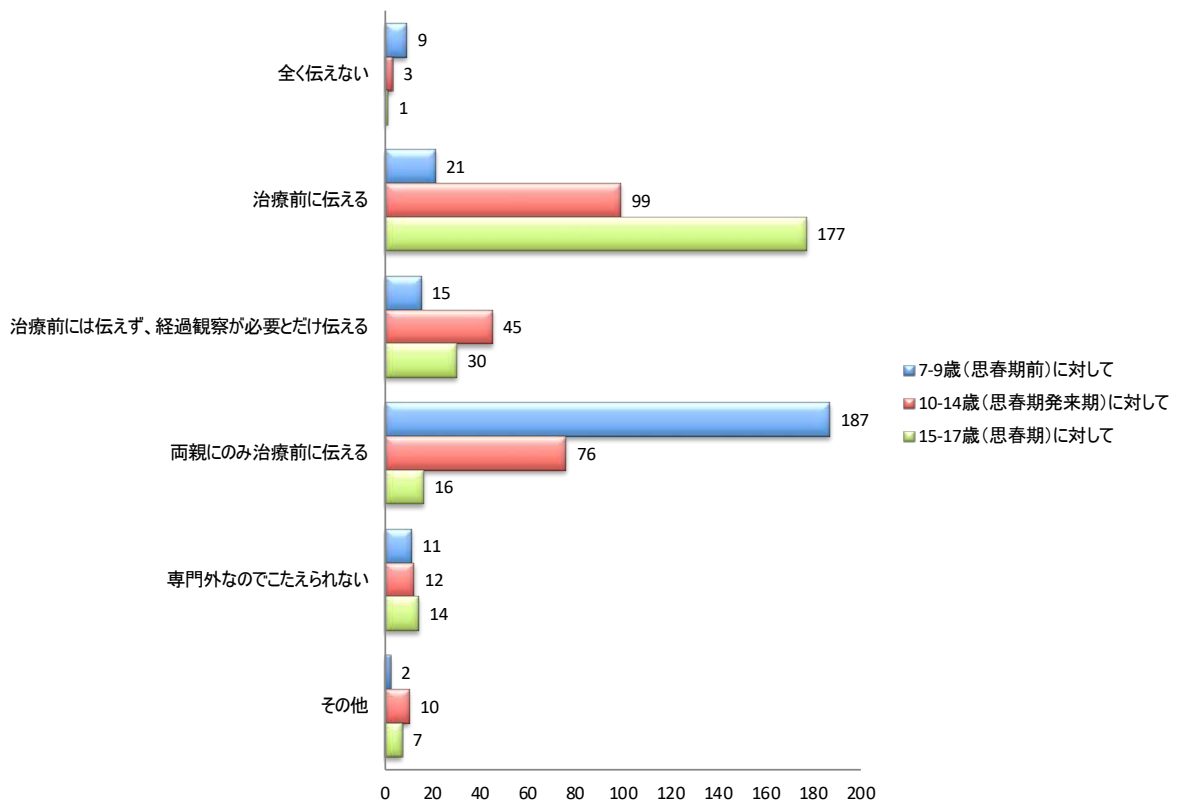


図10-1. あなたは直接小児・思春期がん患者に対してがん告知をどの程度の頻度で行いますか？(Q19)
横棒グラフver.

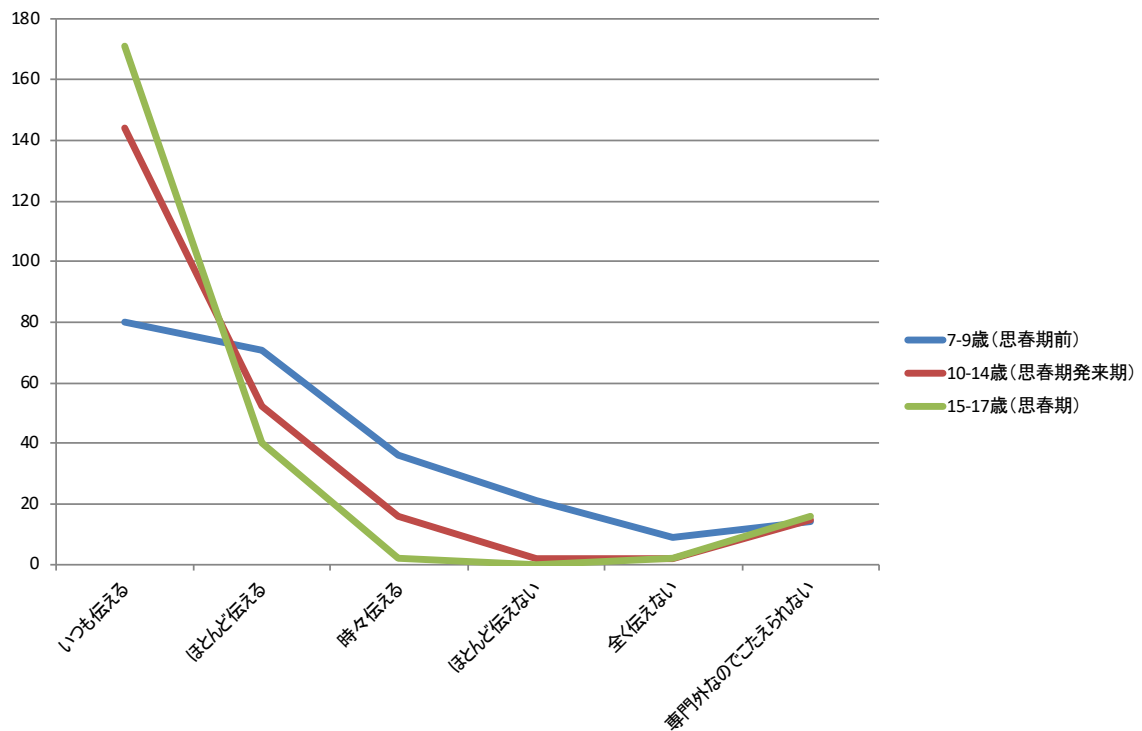


図10-2. あなたは直接小児・思春期がん患者に対してがん告知をどの程度の頻度で行いますか？(Q19)
折れ線グラフver.

表6.図10のデータ

#	Field	いつも伝える	ほとんど伝える	時々伝える	ほとんど伝えない	全く伝えない	専門外なので答えられない	Total
1	7-9歳（思春期前）	34.63% 80	30.74% 71	15.58% 36	9.09% 21	3.90% 9	6.06% 14	231
2	10-14歳（思春期発来時期）	62.34% 144	22.51% 52	6.93% 16	0.87% 2	0.87% 2	6.49% 15	231
3	15-17歳（思春期）	74.03% 171	17.32% 40	0.87% 2	0.00% 0	0.87% 2	6.93% 16	231

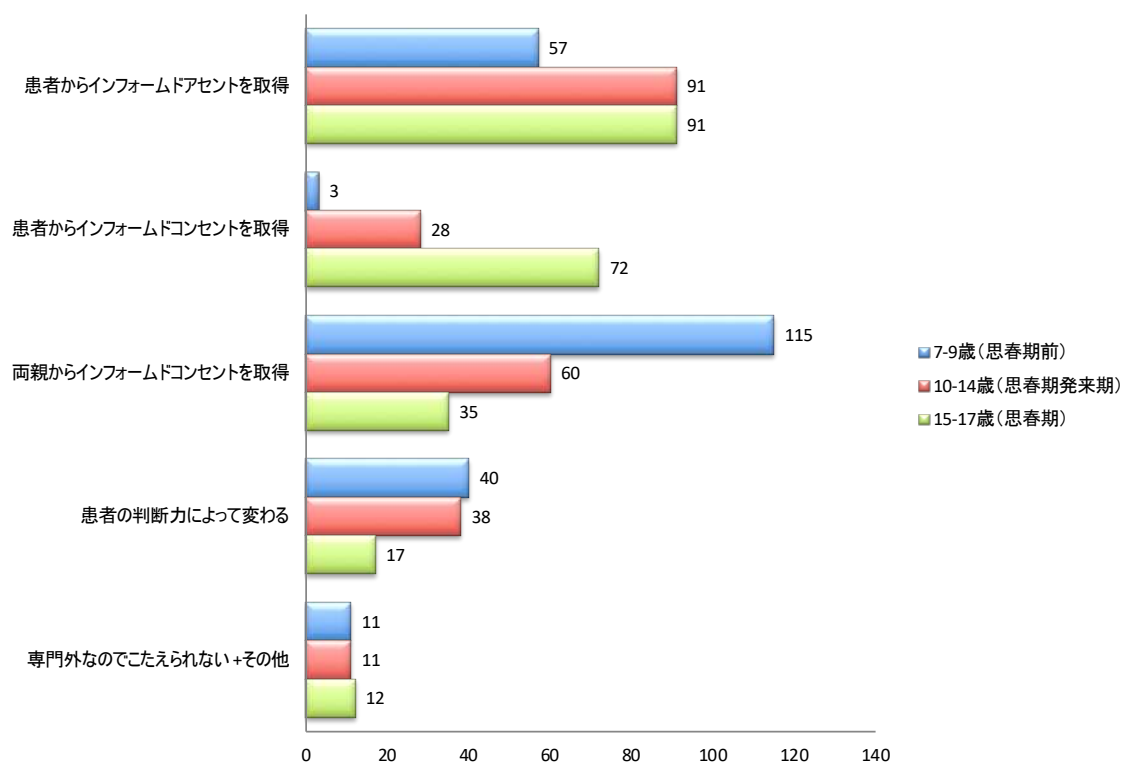
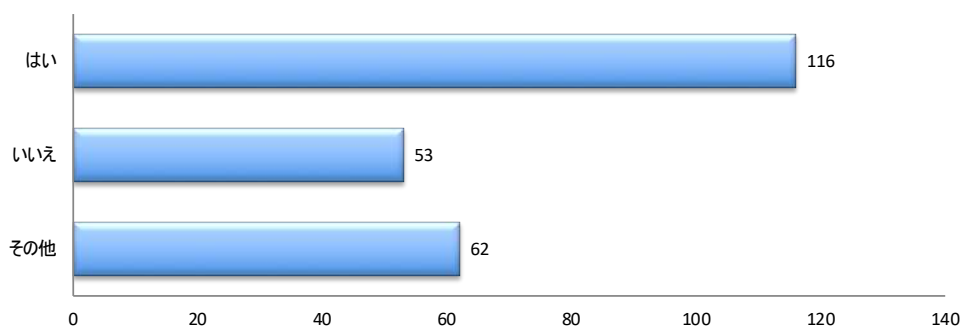


図11. もし、がん告知を直接小児・思春期がん患者に行う場合、小児本人からがん治療に対するインフォームドコンセント/アセントを取得しますか(複数回答可)(Q20)

表7.図11のデータ

#	Field	患者からインフォームドアセントを取得	患者からインフォームドコンセントを取得	両親からインフォームドコンセントを取得	患者の判断力によって変わる	その他	専門外なので答えられない	Total
2	10-14歳（思春期発来時期）	39.39% 91	12.12% 28	25.97% 60	16.45% 38	1.30% 3	4.76% 11	231
3	15-17歳（思春期）	39.39% 91	31.17% 72	15.15% 35	7.36% 17	1.73% 4	5.19% 12	231
1	7-9歳（思春期前）	24.68% 57	1.30% 3	49.78% 115	17.32% 40	2.16% 5	4.76% 11	231



#	Field	Choice Count
1	はい	50.22% 116
2	いいえ	22.94% 53
3	その他	26.84% 62
		231

図12. もし医師からがん告知を小児・思春期がん患者に直接行わない場合、両親から患者にがんに罹患していることを伝えてもらいますか？(Q22)

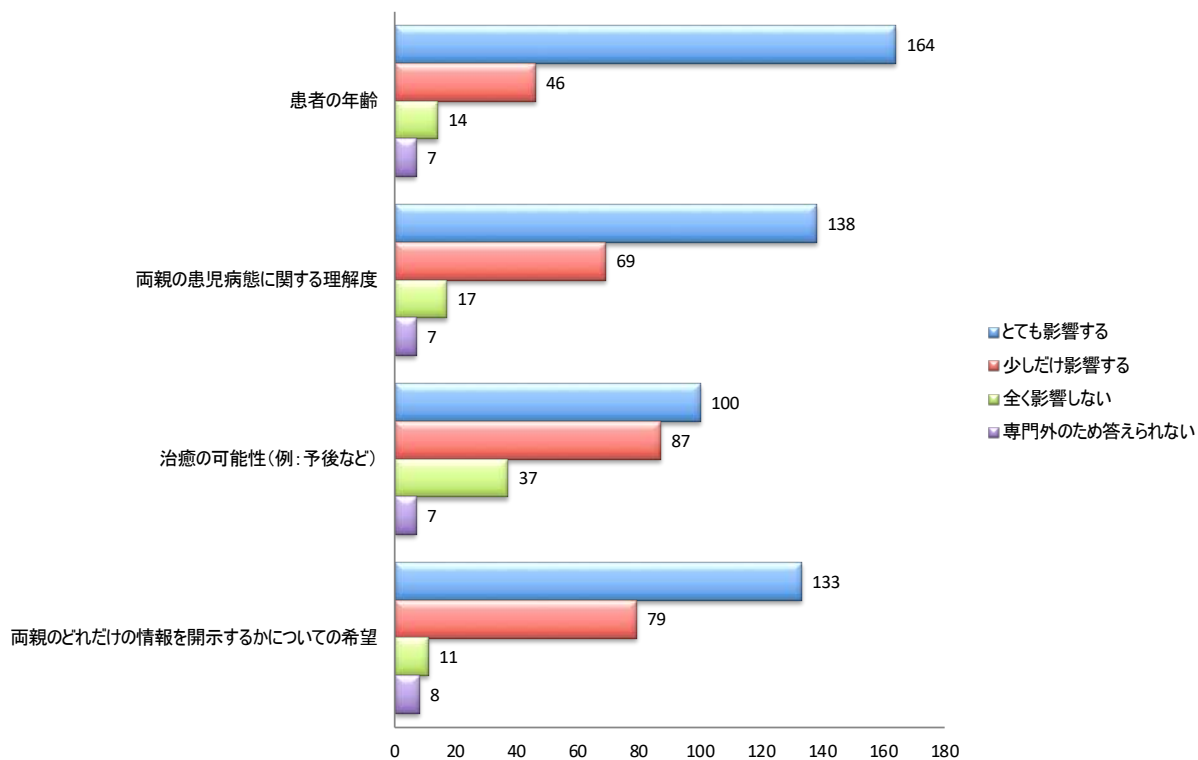


図13. あなたが小児・思春期患者にがん告知を直接行うかどうかを決定する際に、影響を受ける因子について教えてください(Q23)

表8. 図13のデータ

#	Field	とても影響する	少しだけ影響する	全く影響しない	専門外のため答えられない
1	患者の年齢	71.00% 164	19.91% 46	6.06% 14	3.03% 7
2	両親の患児病態に関する理解度	59.74% 138	29.87% 69	7.36% 17	3.03% 7
3	治癒の可能性(例: 予後など)	43.29% 100	37.66% 87	16.02% 37	3.03% 7
4	両親のどれだけの情報を開示するかについての希望	57.58% 133	34.20% 79	4.76% 11	3.46% 8

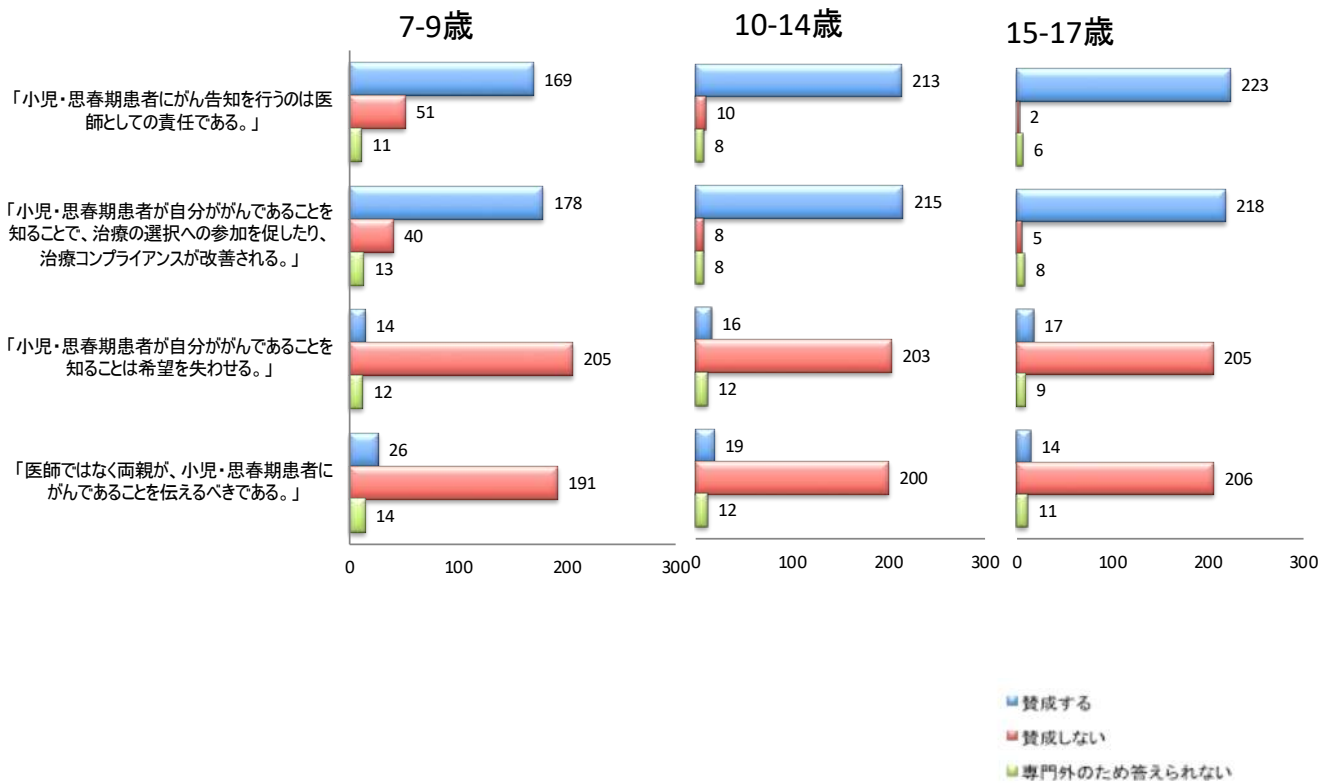


図14. 次の事項について、あなたが医師として賛成するかどうか教えてください(年齢層別)。(Q24)